

## 人権ほつと二年八月号

「仕事と家庭の相乗効果」

大阪教育大学教授

安達 智子

コロナ感染症対策のため

に、リモート・ワークへの切り替えが加速しています。世間では急な変化に戸惑いがある一方で、職場から離れていても仕事ができることを実感する人が増えているとのこと。

「やればできる！テレワーク」などの声が聞かれ、心理的にも物理的にも離れていた仕事と家庭の距離がぐっと縮まりました。けれども、頭の中で仕事と家庭が切り離されただままでは、仕事に費やす時間や労力が大きくなると、そのぶん家族と過ごす時間が減るといふかたちで両者はトレードオフの関係にあります。

しかしグリーンハウス・

J・Hは、仕事（ワーク）での役割は家庭（ライフ）における役割の質や満足感を高めるし、家庭での役割も仕事へプラスに働くとして、ワーク・ライフ・エンリッチメン

トの考え方を提唱しています。エンリッチとは「高める」あるいは「強化する」ことを意味しており、仕事役割と家庭役割は互いの役割をより豊かにするという発想です。

例をあげると、仕事で獲得した「見通しを立てる」スキルは、生活設計に応用できます。また、子どもやパートナー、親戚などとの関係性で養われたコミュニケーションスキルは、仕事場面における人間関係の構築に活かされます。さらに、何かを成し遂げることで培われた自信や自尊心は心の土台となり、新たなチャレンジを手助けしてくれるでしょう。

仕事と家庭生活の関係は「あちらをたてればこちらがたたず」ではなく、相互に作用してより豊かな生き方や働き方につながる可能性を秘めています。現在、コロナ禍にあつて、仕事と家庭生活の新たな関係性が模索されています。そのなかで、仕事と家庭の相乗効果<sup>※</sup>シナジー効果に注目していききたいものです。